

ザ・クラリネット Clarinet

The Clarinet Life Magazine

Vol. 38
2011

定価 1,000 YEN

[COVER & INTERVIEW]
シャーリー・ブリル

[CLOSE UP]
四戸世紀

[ENSEMBLE SCORE]
クラリネットで吹きたいスタンダード・ナンバー
「AKB48♥嵐メドレー arecマンボ!」

[SERIES]
あの曲をクランサンブルで
「大地讃頌」

[SPECIAL]

ようこそ、 クラリネットの世界へ

初めてのクラリネット
初心者への教え方 間違っていない?

講師・インタビュー: 小倉清澄



Shirley Brill

チャレンジすることで、 もっと、もっと音楽を楽しめるようになります

いま大注目の女性クラリネット奏者が初来日を果たした。スーピン・メータや、ダニエル・バレンボイムらの指揮するオーケストラの一員で演奏し、世界中から注目されているシャーリー・ブリル氏だ。来日リサイタルでは3本の楽器を使い分けながら「ベルベット・トーン」と賞される繊細な音色を披露し、日本の聴衆をおおいに魅了した。そして今回は、「日本のブリルファン第1号」を自認する東京交響楽団奏者の近藤千花子氏との対談が実現。美しい音色の秘密を聞いてみた。

*対談 近藤千花子(東京交響楽団クラリネット奏者)
*翻訳 早瀬圭一

● Profile

シャーリー・ブリル Shirley Brill

イスラエル生まれ。クラリネットをイザーク・カトザブに学び、ドイツのリュウベック音楽大学、ボストンのニューイングランド音楽院へ留学。ザビーネ・マイヤーやリチャード・ストルツマンに師事する。2007年ジュネーブ国際コンクール1位準第2位受賞。メータ指揮イスラエル・フィルとの共演を皮切りに、マンハイム室内管弦楽団、ジュネーブ室内管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団など著名オーケストラと共演を重ね、09年バレンボイムが指揮するウエスト・イースタン・ディヴァン管弦楽団のメンバーに抜擢されて注目を集めた。カーネギーホールやボンのベートヴェンハウスなどで多くのコンサートに出演しており、シュレズヴィヒ＝ホルシュタイン管楽隊、リュブリャーナ音楽祭、タボス音楽祭など、またモンペリエのフランス放送音楽祭など国際的なフェスティバルにも招待されている。新世代のもっとも優れたクラリネット奏者として評価が高く、近年は、マスタークラスなど教育分野での活躍も豊富である。2008年パンクラシックスからデビューCDを発売し、絶賛を博した。ドイツ在住。
<http://www.shirleybrill.com>



仲間と一緒に演奏できる
楽器を選んだ

——近藤さんが、ブリルさんを知ったきっかけは?

近藤 たまたまCDショップでブリルさんのウェーバーのアルバムを見つけたんです。音色も音楽性も本当にすばらしく、まさに私の理想とするクラリネットだと思ったので、インターネットでブリルさんのホームページを調べ、「CDを聴きました!」とメールしたのが始まりでした。ブリルさんから返事が来て、それから連絡を取りあっているうち、ぜひお会いしたいとずっと思っていたんです。ですから今回お会いできて、とても嬉しいです。

シャーリー・ブリル(以下B) 私もお会いできて嬉しいです。オーケストラには入団して何年に?

近藤 今年で5年目ですね。

B オーケストラにいて、難しい曲をたくさん演奏するから大変でしょう?

近藤 はい。特に忙しいオーケストラに入っていて、準備が大変だけど楽しいです。

B 室内楽も好き?

近藤 もちろん!

B 私も大好き!

近藤 ところで、ブリルさんはいつからクラリネットを?

B 10歳の時です。6歳からピアノをはじめたんですが、そのうち姉がフレッチホルンを吹き始めました。姉が大

勢の友だちの中で演奏したり、オーケストラやアンサンブルをやっているのを聞いてうらやましくなりました。ピアノを弾くのが孤独に感じ、私も違う楽器をやりたいと思っていたら、たまたま学校にクラリネットの先生が来て教えてくれることになりました。校長先生から「君、クラリネットやってみる?」と聞かれて、はじめのがちょうど10歳。もしオーボエの先生が来ていたらオーボエをやったかもしれませんが、たまたまクラリネットを選ぶことになりました。それから習い始め、高校を卒業してからドイツのリュウベック音楽大学に留学し、18歳からザビーネ・マイヤー先生に師事することになりました。



近藤 なぜマイヤーさんのところに？

B やはり現在でもクラリネットのトップ奏者だからですね。イスラエルで勉強していたときから、とにかく憧れていました。クラリネットの先生にも、マイヤー先生のCDを持ってたら私にください！と言っていたくらいです。彼女のテクニックもそうですが、音や表現方法が私の一番の模範でした。大学で教えていることは知らなかったのですが、ずっと教わりたいと思っていて、いろいろ調べてみたところ、リューベックで先生をしているとわかって、とにかく興奮しました。すぐにでもドイツに行きたいと思い、留学したんです。ドイツにはオーケストラやアンサンブル、弦楽の演奏があふれているので「私が勉強するにはここしかない！」という気持ちになったのも留学を決めた一因です。

近藤 マイヤーさんのレッスンはどんなものでしたか？

B すばらしかったです。マイヤー先生の最初のレッスンから、自分がとても落ち着きました。マイヤー先生からは、とにかく音色のことを学びました。今まで自分が持っていなかった新しいテクニックも教えていただいたし、すでに知っていたテクニックに関しても、違う形でのアプローチのしかたを彼女から学びました。それによって深い、濃い音や、丸い音、響く音など、様々な色が出せるようになりました。

また彼女からは幅広いレンジを持つようにと教わり、いろいろな音楽の形式を学びました。そして、自分のレパートリーを確実にひとつひとつ増やしていくことができたのです。

近藤 そのあと、アメリカのボストン・ニューイングランド大学でリチャード・

B はい、ストルツマン先生は、私にとってもうひとりのスターです。マイヤー先生とストルツマン先生のレッスンは大きな違いがありました。マイヤー先生に学んだことはまずいったん他のところに置いておいて、ストルツマン先生のところでは学ばなくてはなりませんでした。一番考えなくてはいけなかったのは、自分をいかにして表現するか。とにかく自由に表現していいと学びました。感じるままに表現しなさい、その表現方法が良かったとしても良くなかったとしても、とにかく自分の思ったことを表現しなさいと。そしていろんな音楽を体験しなさい、ファンタジーを持ちながらいろんな音楽を体験しなさいということ学びました。マイヤー先生からも大きなことを学んだのですが、ストルツマン先生のところでも自分のレパートリーが広がったように思います。

自分が歌っているように吹いたり、母音の「オー」という音をイメージしながらロングトーンをします。先生からは「人とクラリネットが一体となって部屋全体を響かせるように」と教わりました。ロングトーンの仕方は、♯からスタートして徐々に音量を上げていったり、ディミヌエンドをかけて小さくしていったり。これを集中して5分したら、私としては十分です。あとは教則本の中から一つの調のスケールを選んで、そこに出てくるいろんな形の音型を練習するようにしています。それも含め、毎日30分間は練習します。長く吹かない時期があった場合には、そういった練習に教則本をブラして1時間くらい練習します。

近藤 今回の来日リサイタルでは、3本の楽器を使い分けて演奏されましたね。あまり例のないことだと思うのですが……。

B リサイタルで吹いたのは、3本とも同じセゲルケの楽器で、1本はグラナディアのB♭管。他の2本はボックスウッドのB♭管とA管です。グラナディアはブランクの「ソナタ」と吉松隆さんの「鳥の形をした4つの小品」、ドビュッシーの「第1狂詩曲」を吹きました。シューマンの「幻想小曲集」とブラームスのソナタはボックスウッドの楽器で演奏しました。20世紀の初頭まではボックスウッドのクラリネットを使っていた奏者も多かったと聞き、私も使ってみようと思ったのです。ボックスウッドの楽器はピアノとよく音が合うし、響きもやさしい。でも20世紀の音楽を吹くには音がやわらかすぎるので、プログラムの中で楽器を替える必要がありました。材質の違う3本の持ち替えは簡単ではありませんが、音色の変化で面白さを出せると思います。家で何度も練習してからリサイタルに臨みました。



リサイタルは挑戦の場でもあります

近藤 ブリルさんのクラリネットは美しく繊細な音色で、「ベルベット・トーン」とも賞されていますが、どんな練習を？

● Interviewer

近藤千花子 Chikako Kondo
東京交響楽団クラリネット奏者。東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、2005年東京芸術大学を音楽卒業。安宅賞、フアンタズ音楽賞受賞。第14回日本木管コンクール、第48回日本音楽コンクール第2位。第2回 Beijing International Music Competition 第3位。これまでにクラリネットを磯部周平、山本正治、村井祐亮に師事。室内楽を百田将に師事。



ブリルの楽器。左からボックスウッド製のA管、グラナディア製のB♭管、ボックスウッド製のB♭管

繊細な音色を生み出す楽器の秘密

近藤 セゲルケの楽器を選ばれたのはどうしてですか。

B セゲルケさんとは昔からの知り合いで、いつも私の楽器を良いコンディションに保ってくれました。以前はセゲルケのタルとベルだけを使っていましたが、そのうちすべてセゲルケの楽器を使い became たんです。セゲルケは奥行きのある、より豊かなサウンドがする楽器で、上から下まで均等に同じ感覚で吹け、高音もラクに出せます。またとても音程が良いです。この楽器を持っては幸せだと思います。

近藤 マウスピースとリードは何を？

B マウスピースはバンドレンのB40ライヤーを使っています。リードはバンドレンV.12の4番を使っています。4番と言うと、よく驚かれます(笑)。

近藤 私も4番を使っていたことがあります。たしかにいろんな人に驚かれますよね(笑)。リードは削ったりしますか？

B 唇が荒れてしまうので、リードの表面を紙ヤスリで削ることはありますよ。また、裏側も削ります。削らないとすごく雑な音が出ることもあるし、そこを削ることでもっとリードが振動するようになると思うので、紙ヤスリでスムーズにする程度に整えます。

象にしたものですが、私が講座を受け始めたとき、卒業生だった彼がたまたまレッスンに来ていたんです。とても親しい友人になって、1年後には交際を始めました。すごく気が合うので「それなら一緒に演奏するべきじゃないか」ということで、1999年からデュオでの演奏をはじめました。

彼が共演してくれるのはとても幸せなことです。コンクールでも伴奏してくれ、音楽的にも精神的にも支えてくれ、リラックスさせてくれます。

ふたりとも前向きな性格なので、不平等や不満を言い合うこともない。なにより音楽の方向性がとても似ているので理解しあえます。



編曲は宝物を見つける道のひとつ

近藤 ブリルさんは既存曲をクラリネットに編曲する活動を積極的に行なっていますが、なぜそういった活動を？

B クラリネットへの編曲は、以前、ストルツマン先生から勧められたんです。私も挑戦しがいがある面白さを感じたので手がけてきました。クラリネットのレパートリーが少ないからという理由だけではなく、新しいものを探して演奏

することにとっても興味があります。とても良い曲になったものもあるんですよ。ヤナーチェクのソナタ(原曲はヴァイオリンとピアノ)をクラリネット用に編曲し、実際に原曲を演奏していたヴァイオリニストの前で演奏しました。どういふ評価を受けるか不安でしたが、実際にはとても良い評価をいただきました。

この5月にはスイスで、シューマンのヴァイオリンコンチェルトをアレンジしたものを初演することになっています。また今、ストルツマン先生から勧められているのは、プロコフィエフの「ソナタ Op.94」(原曲はヴァイオリンとピアノ、またはフルートとピアノ)をクラリネット用にアレンジしたものを演奏することです。この演奏は秋に発表するCDに収録する予定です。この曲を見つけて、演奏することができてとても幸せだと思います。

近藤 ところで、クラリネットはイスラエルでもポピュラーな楽器ですか？

B はい。イスラエルでは、クラリネットはクラシックだけでなく、ユダヤ人の民族音楽であるクレズマの主役的な楽器なので、よく演奏されます。またジャズにも広く使われています。クラリネットはいろいろな種類の音楽ができるから、とてもポピュラーな楽器と言えますね。

近藤 最後に、日本の印象はいかがですか。

B とても落ち着ける国ですね。日本の人は皆、私を温かく迎えてくれます。来日してからほとんどいつも日本食なのですが、とてもおいしい。ラッピングがいていいので、盛りつけも美しいですね。日本料理も、日本のスイーツも大好きです。また来られることを楽しみにしています。

近藤 ぜひまた日本にいらしてください！今日はありがとうございました。

音楽で出会った大切なパートナー

近藤 今回一緒に来日した「プリラーナー・デュオ」として共演されているジョナサン・アーナーさんとは、ご結婚されているのですよね。共演はいつごろから？

B 彼と初めて会ったのは1998年ごろで、イスラエルで行なわれた室内楽の夏期講座でした。18歳までの生徒を対

●シャーリー・ブリル 公開クリニック&ミニコンサート

[日 時] 1月24日(月) 19:00~ [会場] 石森管楽器地下イベントホール
[受講生] 嵯峨由衣 トビユッシー:クラリネットのための第一狂詩曲
近藤千花子 ウェバー:クラリネット協奏曲第2番

クリニックの受講生は2人とも既にオーケストラなどで活躍するプレイヤーということもあり、レベルの高い内容になった。音色や音量にもっと種類を増やして、場面やキャラクターごとに使い分けると、それには息の支えが必要だということを繰り返して語るブリル氏。幅広いダイナミクスレンジを手に入れるのも、やはり息。幅広い表現力で演奏したいと思えば、蓄積に立ち返る必要がある。そんなことを再認識したレッスンだった。レッスン後、「ミニ」とは名ばかりの充実したコンサートでは、ブーランクとブラームスのソナタを披露。レッスンでのアドバイスを体現するかのよう、真摯な演奏を聞かせてくれた。

